

第 31 回 原子力安全検討議事録

日時:2020年2月20日(木) 13:30~15:30

場所:JANSI 13階 第5会議室

参加者:

主査:宮野(法政大)、幹事:河井(JANSI)、成宮(JANSI)

委員:飯倉(東芝)、大貫(MHI)、織田(日立 GE)、桐本(電中研)、佐々木(関電)、関村(東大)、

常時参加者:藤崎(関電)

議題

1) 前回議事録の確認

成宮幹事によって、資料 31-1 に基づき説明があり承認された。

2) 技術レポート「リスク評価理解のために」標準委員会コメント対応と修正案

成宮幹事(分科会幹事)によって、資料 31-2-1~3 を使い、本技術レポートの改定にかかる方針、標準委員会コメント対応、そしてコメントを反映した完本版が説明された。議論の結果、①この3つの資料で標準委員会に報告審議することは了解、②6章の提言は良いことが記載されているので今後フォローをきちんとすること、③関係組織(NRRC など)へ配布&説明に行くことを考えること、が決まった。

主な質疑は以下のとおり。

C:6章の提言は良いことが記載されている。これをきちんとフォローすることが必要。

Q:NRRCはこの提言をどう考えるか?

A:PRA及びリスク情報活用のアップグレードはNRRCの役割。

C:エグゼクティブサマリーだけでなく提言も併せて配布すること。それにより理解が深まる。

Q:アクションプランが必要。いつまでにどこが何をするか、がないと、これだけでは実行にはつながらない。その中で、具体的な標準委としての制改定の提言に結び付けて欲しい。

A:相手の組織で考えることなのですべてのアクションプランとは書けない。標準委員会のものであればこれを見て、計画を立てることはできる。

C:講習会で提言を理解されるように伝えること。

C:関係組織に配布するだけでなく説明を行ってはどうか?配布しても読まないだろう。NRRC、JANSI、など。

A:電事連ではRIDMのプランを以前出して3月にはそのフォローアップが出ると聞いている。解析コードであればJAEAになる。そういうところにも説明は必要と考える。

C:販売だが、たとえばNRRCが50部とか、単にHPに掲示するだけでない工夫が必要。

3) 報告書「外的事象安全の基本的考え方」標準委員会コメント対応と修正案

成宮幹事(分科会幹事)によって、資料 31-3-1~3 を使い、本報告書の今後の進め方、標準委員会コメント対応、そしてコメントを反映した完本版が説明された。議論の結果、①標準委員会には今後

の技術レポート化をどのように進めていくのかを報告すること、②エグゼクティブサマリーに一部、理解しにく表現があるのでそれを直して標準委員会に報告すること、が決まった。

主な質疑は以下のとおり。

C: 技術レポートにする際には、ほかの規格標準との関係性を明示することが必要。具体的な関係を示すことでこの技術レポートの意義、位置づけが明確になる。そうでないと単なる文書で終わる。

C: 外的事象に対する原子力安全を合理的に実現するために、この技術レポートを作成するのだから、規格標準にどうつながるのかを示すことが必要。

Q: 地震工学会へのフィードバックは行うのか？

A: 地震についてはすでに電気協会耐震設計分科会の耐震設計技術規程の次回改定の議論に、地震工学会&原子力学会の報告書を基に議論することになっていて来週説明に行く。

C: 機械学会、原子力学会、電気協会の耐震関連の規格標準の前提条件が異なっていることは、以前から指摘があるところ。そういうことをこの技術レポートから正していくことを期待したい。

Q: エグゼクティブサマリーの文章で意味が読み取れないものがあるが、どういう意味か？

A: エグゼクティブサマリーは本文記載から抜粋して書いているので、国内発電所における状況を記載している箇所だと思う。

C: たとえば竜巻対策で固縛していることで、そのために更なる電源を用意しないといけないなどの、過剰な対策、ハザードごとに独立した対策を関係性なく取らざるを得ないこと、を指しているのではないか。

A: 本文と確認して修正する。

4) ISO/WD 4917-1 Design of Nuclear Power Plants against Seismic Events — Part 1: Principles について

成宮幹事によって、資料 31-4-1～2 を使い、ISO へのコメント依頼に対して原子力安全検討会の外的事象安全分科会が関連箇所についてのコメントを考えることを確認した。また地震工学会のメンバーにも意見を求めることが指示された。

主な質疑は以下のとおり。

C: 以前にも同様の耐震設計の ISO が来ていて、今回はそのリバイス。

C: 以前の版でも Principles があったのか。Part2 以降はいかにも ISO の産業機械の標準という感じで part1 とだいぶ趣が異なる。目次を見た範囲では、IAEA の標準に書いている内容と類似しているので、完全にかぶることになるのではないか、あるいは少し違う国際標準ができるのでは困る。

C: ISO からの提案に対してコメントするだけでなく、地震の多い我が国こそ、地震安全原則のようなものを ISO として提言できると良い。

5) 学協会規格高度化 WG 報告書(案)が挙げる論点への対応の検討結果について

河井幹事によって、資料 31-5 を使い、学協会規格高度化 WG 報告書(案)の論点にかかる対応状況の説明があった。標準委員会基本戦略タスクから出されている論点への対応について、原子力安

全検討会で検討した結果を再度各専門部会長へ発信し、3月の標準委員会での標準策定5ヵ年計画への反映を促すこととなった。主な質疑は以下のとおり。

C:規格高度化WGは協議会の活動だがこれは標準委員会としてまとめる件。

Q:論点の表で「2年後」となっているが専門部会で承認されているのか？

A:検査制度から見てこれくらいには必要ということで記載した。論点表の記載全体について各専門部会で議論してほしいと思っている。

C:標準委員会での専門部会標準策定5ヵ年計画を審議する際にこの論点についてどうするのかを聞くことになると理解した。

→ その旨で各専門部会に再度督促しておくのが良い。

6) 次回日程

5月19日10:00~12:00とした。

以上